

\*\*\*\*\*ここから『電子耕』\*\*\*\*\*

隔週刊「76歳が送る農業文化マガジン『電子耕』 第68号

--農業・健康・食・図書・人物情報--

2001.10.11 (木) 発行 東京・ひばりヶ丘 原田 勉

\*\*\*\*\* 発行部数 1364 部 \*\*\*\*\*

<キーワード>

農林・園芸を中心として健康・食べ物・図書・人名・庶民の歴史をめぐる情報を提供し、お互いに<読者の声>のメール交換をしましょう。

---

目 次-----

<読者の声>稲垣さん、田んぼのおばさん、

<近藤康男先生近況報告>文芸春秋に「私の健康歴」を寄稿

<舌耕のネタ>「どんなことがあっても日本は戦争をしてはならない」

<野菜だより>・証拠もなしに・情報と狂牛病と・すずき産地

<暑さ寒さも>硝酸性窒素問題を考える(その2)環境クラブ

<農業・図書情報>農文協図書館の浪江虔・南多摩農村図書館文庫紹介

<山崎農業研究所>『耕』no.90・主な目次・記事紹介

---

<読者の声>ここはメール交換の場です。編集者はコメントしない場合もありますがこれは、メールを無視したわけでは無く、読者同士の交流にゆだねるという意味ですからご了承下さい。-----

<読者の声>

■9/13 稲垣さん：始めまして・水質と芽だし玄米

原田先生：

闘病生活をされながら、筆を走らせて居られる！先生の直向な読者に対するご慈愛の1%でも煎じてのみたいです。

小生アメリカ在住40年、自称万年青年として、朝食無し、玄米党+生野菜、適度の運動、それにオツムを常に刺激しています。

例えば、水質と玄米に取り組んでいます。稲に取り組む稲垣です。

日本の発芽玄米を加工しています会社に当たったものです。

水質：工場でも浄水器を併用しておられますか？

浄水システムを通しますと微量元素が剥奪され、本来の水の活性化度合いが低下しませんか？これは Dead Water に類似していませんか？

多くの家庭用浄水システムもミネラルを剥奪し、綺麗な水??を飲んでいますが生体には自然から与えられたミネラル分タップリの少し濁った水?が適切でしょう。

ボトル水の含有ミネラル?など商業的なパラドクスに我々は振り回されているでしょう。

水質と血液の関連性を記した本や記事は有りませんか？

例えば、蒸溜水の飲用と赤血球数と白血球数の相対変化値、H イオンと OH イオンと血液等を知りたいですね。

栄養素の運び屋である水と血液を通じ、発芽玄米に含まれる GABA や IP6、オリザノール、イノシトール等のような生理活性を発揮しているのでしょうか？

まさしく各種有効成分を含む玄米は幻米、源米、絃米などの当て字で表現出来ますし、バイオの世界に踊りだしてくるでしょう。玄米に含まれる幻の生体シナジー有効成分！中々奥行きが深く、溺れそうですが、Life Guard の役目を果たして頂ければ、小生マーケティングの世界で暴れます。

どうか御社でも大いにチャレンジして下さい。

自愛の程

稲垣 元彦

●コメント：掲載が1号遅れて失礼しました。水問題は現在の大きな問題です。今後ご意見ください。

■9/27 田んぼのおばさん：戦争のない世界のために、

原田さま

引越しも終え土いじりに意欲的なご様子に、ほっとしています。

さて、今回のアメリカ同時多発テロに関して。

私は子どもの中学校でPTAにかかわっています。多くの親達が子ども達の未来を案じ、いま私たちに何が出来るのだろうかと言葉に話していたまきにそのとき『No War Mail』なるものが届きました。報復戦争に反対する署名をホワイトハウスにおくろうというもの。時が時だっただけに、とび

ついて大勢の友人へ呼びかけ、メールをばら撒きました。その中の一人から『悪質なチェーンメールかも』との情報が入り、中止の連絡に四苦八苦しています。

ウィルスやチェーンメールについて全く知識がなかったわけではないのですが、言われてみれば怪しげな点がありました。戦争を正当化するなど、あつてはならないという思いばかりで、しかも知人から知人へとまわって来るメールに疑いを抱かなかったのは早計でしたが、こういう時期に人の善意を踏みにじるいたずらは許せません。多くの友人に混乱をまきちらしてしまった責任を感じています。

このトラブルで収穫があったとすれば、アメリカの報復に『No!』という人がこんなにも多いとわかったことです。メディアから流れて来る情報も、どこまでが真実なのか、操作されて流されたものなのか判断に迷う毎日です。こんなかたちで日本が戦争に進んでいくなんてあつていいはずがないと思いつながらも、一人で何ができるのかという無力感も感じていました。怪しいメールだと思いつながらも、何かしたい、訴えたいという人がこんなにも多いのです。

確かに小泉内閣誕生の時、ムードに流されて大切な事を見失う市民も多かったのですが、まだまだ良識のある人々が健在であり、また、手を取り合えば大きな力にもなるのだとわかったことは救いです。

いまは『チェーンメール』をばら撒いた責任に打ちひしがれていますが、また気を取り直して今からできる事をさがして取り組んでいきたいと思つています。

田んぼのおばさん

●コメント：また、戦争が始まってしまったが、宣戦布告なしに、こんなことが許されるのでしょうか。私はあくまで反対です。

---

<近藤康男先生近況報告>文芸春秋に「私の健康歴」を寄稿

---

「文芸春秋」臨時増刊編集部から近藤康男先生に初めての原稿依頼で、四百字四枚という枚数制限に苦労された。何度も書き直し、ようやくできあがったのが「私の健康歴」です。発行前ですから草稿の要点だけ紹介しましょう。

「寝る子は育つ」と言いますが、老人は、幼児以上に睡眠が大切だと思いま

す。この問題を中心に私の記憶を振り返ってみます。

私は愛知県で、今は岡崎市に編入された農村で農家の長男に生まれました。小学校を終えた時、家の跡継ぎをする方向で、小学校高等科に進んで卒業しました。その頃欧州大戦による好景気、ことに農村は養蚕が有利の時代でした。農村からも高等教育を受ける者が多くなった時代でした。私もその一人で旧制中学校に入学しました。自宅から歩いて四十分の県立中学校へ五年間通ったのが私を健康にしたと思います。

この中学時代に私は夜は十時まで予習・復習、朝は六時起床して勉強という習慣を作り上げたようです。第八高等学校、東大農学部に学び、農業問題の研究に入りましたが、日常生活は基本的には同じでした。好景気は大きく変わり不況に転じ、経済恐慌・農業恐慌になってそれが戦争時代に続いたのですが、私の生活に変化はありません。

私が本格的病気になる、胃ポリープの切開手術をしたのは戦後、私が六十九才の老人になった時です。定期検診で胃ポリープが発見されました。二カ月の準備期間をおき七月に手術と決まりました。

私はその間に、漢方薬の服用と、指圧による睡眠の促進を始めました。

これらの用意が効いたのでしょう、私の手術は順調に行われました。輸血の必要もなく、九月には大学の講義を平常通りすることができました。あのポリープ手術から三十年以上になる今日まで私は健康を保っていますが老化はまぬがれません。八時間睡眠は十時間睡眠になっています。

あの手術の時、課題とした指圧による睡眠促進がそのまま維持され、毎日実行しています。例えば最も重要な脳に対しては、両手の四指で頭の頂部から前額を通り眼の上（眉毛）まで指圧するのです。また両手の中指でこめかみを指圧。両手の親指で耳のまわりや、首筋を指圧。頭に対する最後は左右十本の指でかるく頭を叩くなどがあります。肩や肘、膝、足に対しても、それぞれに適する指圧を加えて全身を活性化して睡眠を誘うものであります。

それは中国の何千年の歴史の中で民間療法として完成したものでしょう。

これは何等の費用を要せず、家人の手間によることもなく、誰でも、何時でも自分で不眠と闘うことを可能にしているものです。私がこれを強調する理由をご理解いただけたと思います。

（農文協図書館理事長・東大名誉教授、102歳）

<http://nazuna.com/100sai/>

---

<舌耕のネタ> 「どんなことがあっても日本は戦争をしてはならない」

---

10月8日午前1時半、ついにアメリカとイギリスによるアフガニスタン攻撃が始まった。ブッシュ米大統領は「我々はアルカイダとタリバンに対する軍事作戦を始めた」と宣言した。日本の小泉首相もこれを支援すると明言した。

テロ対策支援法が国会に提出されているが、その成立を急ぐことになろう。しかし、あわててはいけない。いろいろな議論があるが、あくまでも基本計画を「国会の同意」によって行うこと。70年前に満州事変を起こした関東軍の行動を次々に追認し、「支那事変」に拡大した政府と国会の愚行を繰り返してはならない。米軍の軍事行動を支援することと、難民支援は区別するべきだろう。テロ対策はあくまでテロ対策に限定すべきである。

米国でも軍事報復については「国民の報復への熱意は高く、政府もそれを避けられないだろう。しかし、話し合いで和平をつくることこそが、米国のすべきことだ」と話している元米外交官ブルース・ラインゲンの訴えは傾聴に値する。彼はイラン代理大使のとき米大使館で444日も人質になった経験を持つだけに貴重な意見だ。テロの背景についてラインゲンは「パレスチナ問題でイスラエルの利益ばかり代弁する米国が、イスラム社会には受け入れられない存在であることが浮き彫りになった。その不満をビンラディン氏が利用したのだろう」とみる。(毎日新聞10月2日号参照)

私はラインゲンさんの意見に同意する。戦争をしてはならない。話し合いによる和平交渉を望む。その事を日米国民とその指導者にお願いしたい。

---

<野菜だより> ・証拠もなしに・情報と狂牛病と・(転載)

---

■9/28 野菜だよりメールマガジンから すずき産地

● 証拠もなしに… ●

下は新聞で拾った見出しです。驚いたなあ。だって、ビンラディンが犯人だという証拠を確かめもせず日本は、憲法も法律も飛び

越え、アメリカの言いなりになって軍隊を派遣しようとしてきたわけです…さうとう危険なことじゃないかあ!?

たとえ証拠があったって、罪もない人たちを殺すテロや、そして戦争には反対。ましてや日本が手を貸すなど絶対に許せません。

(写真) 新聞記事のコピー 2.5 枚 (略)

## ● 情報と狂牛病と ●

狂牛病が大きな問題になっていますが、農水省のゴチャッペな対応にはあきれられるばかりです。農家にとっても消費者にとっても、あれはもう行政による人災です。

それにしても、病牛は焼却処分したという大ウソ。バレないと思っていたんだから、私たち国民はナメられてるんだよねえ。みんなで怒らなきゃ。

ところで、「輸入牛しか使わないから安全」という貼り紙をしているレストランなどがあるとも聞きます。とんでもないぞお。

だって、きちんとした情報が伝えられないということが最も問題なわけです。その意味では、輸入牛こそまともな情報はほとんど入らないのですから。

トウモロコシやジャガイモなど、認められていない遺伝子組み換え作物が輸入され、食べさせられていた実態が明らかになったのは記憶に新しいところです。

とりあえず個人的には、牛乳や肉は今までどおり普通に食べるつもりです。というか母ちゃんてば、たまには豚肉でない牛肉のスキヤキも食べさせてくれえ！

それに対して、肉以外のどんな部位を原料にしているかわからないハンバーガーなどは、今まで以上に確信をもって食べないようにしたいと思っています。

「すずき産地」

<http://suzuki31.page.ne.jp/>

週刊「野菜だより」メール

<http://suzuki31.page.ne.jp/vegeta/index.html>

---

<暑さも寒さも>硝酸性窒素問題を考える（その2） 環境クラブ

---

硝酸性窒素問題を考える（その2） 「水の味」アンケート

東京都の水道水の硝酸性窒素が高いのではないかと  
感じた私は、環境クラブを通じて、全国の市民の人達に  
「水道水」の水質測定を呼びかけることにしました。

簡易キットを配布し、各地の水道水の硝酸性窒素の測定を  
お願いしたわけです。

同時に実施したのが、「水の味」アンケートです。

水の味、臭い、色等について、  
いくつかの選択肢を作って、水質調査と同時に  
記入してもらうことにしました。

果たして、相関が現れるものかどうか、  
結果については、次号でお知らせします。

（以下 次号）

※硝酸性窒素の測定をみんなで行う

「やさい診断講座」を、10月20日、11月25日  
巣鴨第一区民集会室（JR巣鴨駅 徒歩10分）  
で実施します（参加費 300円）。  
会場が変更になることもあるので、  
事前予約の上、ご来場下さい。

環境クラブ ホームページ

<http://www.ecoclub.co.jp/>

---

<農業・図書情報>農文協図書館の浪江虔・南多摩農村図書館文庫紹介

---

農文協図書館では<閉架式個人文庫>浪江虔・南多摩農村図書館文庫の目録が

出来ましたので、インターネットで公開・案内しています。次はホームページの紹介です。

<http://www.ruralnet.or.jp/nbklib/book/079namiebunko.html>

浪江虔（なみえ けん） 1910～1999

略歴と主な著作：1910年板谷浩造・ツマの次男として札幌市に生まれる。30年武蔵高校から東大文学部美学科に入学するが、すぐ休学。31年小作争議中の鶴川村（現東京都町田市）で農民組合運動に従事、東大を退学。33年共産党のオルグ活動で検挙される。独房生活の中で農村定住と農民運動のやり直しを決意し、転向、35年出獄。農村図書館開設の計画で本集めを始める。36年浪江八重子と会い、農村定着の方針を語り結婚を約束。虔は東京府立園芸学校に、八重子は水原産婆学校へ通学。38年度と八重子は結婚し、農村図書館設立を発表、浪江姓となる。39年鶴川村（現東京都町田市）に定住し私立南多摩農村図書館を仮開設したが、40年兄板谷敬のまきぞえで治安維持法により検挙されて入獄し、44年出獄。獄中で学んだ農業書の知識を活かして産業図書株式会社に勤め農業書の編集にあたる。八重子は43年助産婦を開業、生活を支える。農村図書館を再開し利用盛大。

1945年から農地改革など農民運動と農村図書館運動に傾注するが農業書が農民向きに書かれていないことに気づく。

1947年『農村図書館』刊行。鶴川村議当選。民主主義科学者協会農業部会の農業教科書づくりに参加。6月農文協の農村文化推進委員会に参加、12月（社）農山漁村文化協会理事となる。

1948年から常勤になり『農民通信講座第1号』『農村文化』などのリライト・編集に従事。

1950年『農村文化』に連載を始めた「上手な肥料の使い方」が好評で、これをまとめた『誰にもわかる肥料の知識』は浪江などのめざした農民のための農業書の創造であり、農文協が開発した直接普及の典型となり10万部のロングセラーとなった。

1953年『村の政治』（岩波書店の「村の図書館」シリーズ）刊行。

1954年『農村教育の砂漠』（長野農文協）刊行。

1956年『農村の恋愛と結婚』（農文協）刊行。

1957年『町づくり村づくり』『これで防げる野菜の病気』『成功する家族計画』（ともに農文協）刊行。

1958年『農村の読書運動』（新評論）刊行。

1962年『誰にもわかる土と肥料』（農文協）刊行。

この前後から日本青年団協議会の全国青年問題研究集会、自治労の地方自治研究集会の助言者になる。また国民文化会議参考資料：

浪江虔追悼1、(朝日新聞惜別1999, 2, 10, ほか各紙)

浪江虔追悼2、(図書館関係誌追悼)

浪江虔追悼3、(最後の年賀状、農文協、社会運動・社会教育誌など)

『ずぼん(5)』(特集・浪江虔、私立図書館を50年やってきた。浪江虔夫妻との交友・山代巴、これまでのあゆみ、「年譜」)

『ずぼん(6)』浪江虔を偲んで元私立鶴川図書館を訪ねる。

『図書館文化史研究』NO.16 / 1999, 浪江虔・図書館思想の形成、略年譜、著作目録。

以上の諸資料は農文協図書館浪江文庫に保存されている。

#### <浪江虔文庫蔵書明細表>

書架棚番号 蔵書内容 図書数

NK26-1 浪江虔追悼文集 農業朝日(1946年~1958) 新しい農業 184

NK26-2 経済評論 58

NK26-3 調査資料 大学 山村振興調査会 全国農業会議所

日本作物学会 農業・農民 日本家禽学会 その他 77

NK26-4 その他調査資料・報告書 85

NK26-9 雑誌(農業と経済・農政・農村工業・村・その他) 48

合計 . 452

---

#### <山崎農業研究所> 『耕』no90・主な目次・記事紹介

---

○シンポ「減反100万haの現地は、いま」「地域連携による飼料稲の普及」

○山崎記念農業賞に輝く・善ヶ島飼料稲集団栽培10年

○農業と水質・特に窒素を中心にして：田淵俊雄(元東大教授)

- 1、農業と水質；窒素が大きな問題に
- 2、農業用水の汚濁状況と対策
- 3、地下水の硝酸汚染
- 4、湖沼・閉鎖性海域の富栄養化
- 5、肥料の流出と防止対策；水田と畑地の根本的相異
- 6、畜産ふん尿の排出
- 7、水田における窒素除去；日本的ウエットランド

8、窒素バランスが重要；リサイクルと節約ー水質流域管理

- 赤トンボは、社会的共通資本か？ 宇根 豊
- 生産現場と消費者に貢献した植物バイオ 大山勝夫・田村賢治・岩本嗣  
(さといも培養苗の大量生産、ネギとニラの雑種、フキの新品種)
- 農村市民社会形成の胎動、  
<ほか計B5版90ページ、定価1000円>

申し込み：希望者は事務局へ。

電話：03-3357-5916 FAX03-3357-3660  
〒160-0004新宿区四谷3-5 山崎農業研究所 井上、小泉  
[http://www.taiyo-c.co.jp/public\\_html/yamazaki/yama\\_frame.htm](http://www.taiyo-c.co.jp/public_html/yamazaki/yama_frame.htm)

-----  
— P R —

■■■■ 劇団文化座創立60周年記念第1弾  
■■■□ 『夢たち』  
■■□□ 作=三好十郎/演出=越光照文  
■□□□ 公演期間 2001年10月11日~20日  
□□□□ 新宿・紀伊國屋ホール チケット発売中  
<http://bunkaza.com/>

----- P R -----

『電子耕』から大切なお知らせ  
<http://nazuna.com/tom/10.html>  
<本誌記事の無断転載を禁じます>

\*\*\*\*\*

隔週刊「76歳が送る農業文化マガジン『電子耕』」 第68号  
バックナンバー・購読申し込み/解除案内  
<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

2001.10.11 (木) 発行 東京・ひばりヶ丘 原田 勉  
<mailto:tom@nazuna.com>

\*\*\*\*\* 発行部数 1364 部 \*\*\*\*\* ここまで『電子耕』\*\*\*\*\*